

第6回稲沢市観光基本計画策定委員会 会議録

【日 時】平成29年11月28日（火）午後2時～午後3時50分

【場 所】稲沢市役所本庁舎1階 大会議室

【出席者】稲沢市観光基本計画策定委員会委員（敬称略）

大澤 健	和歌山大学経済学部教授
栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授 ・地域連携センター長
鈴木 隆	一般社団法人愛知県観光協会専務理事兼事務局長
古川正美	稲沢市観光協会事務局長
松田雅之	尾張大國霊神社権禰宜
林 和伸	善光寺東海別院副住職
塩冶康人	国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所河川公園課長
伊藤哲浩	愛知県振興部観光局観光振興課長
岩間福幸	稲沢市経済環境部長
遠藤秀樹	稲沢市教育委員会教育部長
大野邦子	稲沢市観光協会ボランティア会・稲沢市ふるさとガイドの会
橋本昌博	株式会社国分農園代表取締役
高村宗克	特定非営利活動法人ネイヴル理事長
【事務局】 渡會竜二	経済環境部調整監
澤田雄一	商工観光課長
久留宮庸和	商工観光課主幹
大屋 将	商工観光課主任

【議事次第】

- 1 委員長あいさつ
- 2 協議事項
 - (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（案）について
 - (2) その他
- 3 その他

【会議の概要】

[事務局]

皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から稲沢市観光基本計画策定委員会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。私はこの会議の進行を務めます、経済環境部商工観光課長の澤田雄一です。よろしくお願いたします。

始めに会議の開催に当たり、大澤委員長からごあいさつを頂戴したいと思います。

1 委員長あいさつ

[委員長]

皆様こんにちは。先日テレビで「報道ステーション」を見ていたら、突然イチョウが映りました。「黄金色の夜景の中を走る赤色の電車」と言うフレーズが出た後にそのままCMに入ったのですが、祖父江のイチョウだと確信して録画をしました。会議が始まる前の皆様の話を聞いていても、計画づくりを進めている中で少しずついろいろな変化が表れてきていることを感じます。後ほど事務局から今後のスケジュールについて説明があると思いますが、パブリックコメントの前に開催される策定委員会は今回で最終となります。本日皆様からいただいた意見を反映した計画案がそのままパブリックコメントに出る形になりますので、よろしくお願いいたします。

[事務局]

ありがとうございました。次に4点、ご報告とお願いをさせていただきます。

初めに本日の会議ですが、服部正見委員、山田 洋委員、野村 修委員、安藤之一委員及び水谷光宏委員から欠席のご連絡をいただいておりますことをご報告いたします。

2点目としまして、本日の会議には、観光基本計画の策定に当たり業務支援をいただいております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所様に引き続き事務局の補助として同席いただいておりますので、よろしくお願いいたします。

3点目としまして、本日は会場が広くなっておりますので、誠に恐れ入りますが、ご発言いただく際はマイクをお使いいただきますようご協力をお願いいたします。

最後に、本日の会議は午後3時30分頃を終了予定としておりますが、会議終了後、現在見頃を迎えております「祖父江のイチョウ黄葉」をご覧いただく機会を設けております。現地までの送迎車もご用意しておりますので、ご都合が付くようでしたら、ぜひご参加ください。

それでは、これより議事に移らせていただきます。本日の協議事項は、お手元のレジメに記載のとおり「稲沢市観光まちづくりビジョン（案）について」、「その他」の2点でございます。

先ほど委員長からご紹介いただきましたように、本日の会議終了後、委員の皆様からのご意見を踏まえた計画案を取りまとめ、12月19日（火）から来年1月10日（水）までの間、市民の皆様からご意見を募るパブリックコメントを実施する予定です。限られた時間ではございますが、ご審議賜りますようお願いいたします。

会議の議事進行につきましては、本委員会の設置要綱の規定により、委員長が務めることになっておりますので、以後の会議の取り回しにつきましては、大澤委員長をお願いいたします。

2 協議事項

(1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（案）について

[委員長]

これより議事に入りたいと思います。

最初に協議事項（1）稲沢市観光まちづくりビジョン（案）について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料1「稲沢市観光まちづくりビジョン（案）」に基づき説明】

[委員長]

事務局からの説明が終わりました。ご意見、ご質問等がある委員は挙手をしてご発言をお願いします。

[委員]

10 ページに掲載されている「アクションプラン検討会議で協議されているプロジェクト」の「2 緑も歴史もある町 稲沢」について、「Where?（どこで?）」の枠内に「文化財収蔵庫」とありますが、これは何をイメージしているのでしょうか。市には「埋蔵文化財収蔵庫」という名前で管理している施設はありますが、あくまで研究施設であり一般の方に公開して見ていただくような施設ではありません。プロジェクトの内容にそぐわないのであれば、削除していただいたほうが良いのではないかと思います。

[副委員長]

委員が言われたとおり、現在の埋蔵文化財収蔵庫は公開して見ていただくような施設ではありません。ここに記載されている「文化財収蔵庫」は、将来的に尾張国分寺跡に設置される施設を想定して書かれているのではないのでしょうか。

[委員長]

ここに書かれている内容は、アクションプラン検討会議でのワークショップで出た意見を集約したものでしょうか。「将来的に活用したい」という市民の意向を反映した記述であるならば、可能性のある以上は削除しなくてもいいのではないかと思います。

[委員]

私どもの史跡尾張国分寺跡保存管理計画書の中では「文化財収蔵庫」という名称は使っていません。その一方で、あくまで仮称ですが、「学習施設」や「ふれあいの場」という施設は提示をしています。これらを含めた形で捉えるのであれば、「文化財収蔵庫」という名称は適当ではないと思います。

[委員長]

将来的にどのような施設ができるのか分からないため、「文化財関連施設」としてはどうでしょうか。

[事務局]

ご意見ありがとうございます。「文化財関連施設」に修正させていただきます。

[副委員長]

2点申し上げます。1点目ですが、海外の方々が国内の医療機関に滞在して治療を行う「メディカルツーリズム」という考え方が最近あるようです。もしアクションプランに盛り込む余地があるのであれば、稲沢市民病院と連携した取り組みができないかと思います。

2点目として、稲沢市内を本拠地とするスポーツチームがいくつかあります。特にVリーグで豊田合成トREFUELサが優勝した時は、大変盛り上がりました。また、稲沢グランドボウルでもプロボウラーの大会が開催されているようです。こうしたスポーツイベントを活用した取り組みも計画のどこかに加えていただけるとありがたいです。

[委員長]

31 ページのアクションプラン7「イベント・コンベンションの誘致」が関連部分になるかと思っています。「スポーツ」という言葉が出てくるのですが、ここに「ボウリングやバレーボールなど、稲沢市の特徴が生きるようなスポーツイベントにも取り組んでいく」といった具体的な記述を加えてはどうでしょうか。

[副委員長]

バレーボールやハンドボール、オリンピック選手を輩出している女子ホッケーチームなど、稲沢市をホームタウンとしている実業団チームがいくつかあるので、どこかで少し記述があると良いのではないかと思います。

[委員長]

ボウリングについては既にも書いてあるので、今言われたバレーボール、ハンドボール、ホッケーについても、今後誘致に取り組んでいくスポーツイベントとして、可能であるならば盛り込んでいただきたいと思います。

[事務局]

スポーツ競技の関係については、所管する部署がスポーツ課になりますので、記載方法について確認を取りたいと思います。

[委員]

今後、重点アクションプランを始め、この計画に掲載されたアクションプランを具体的に進めていくことになると思います。その推進母体として、稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議を基にした「(仮称)いなざわ観光まちづくりラボ」が来年度に立ち上がるとの説明が先ほどありましたが、この組織のエンジンは誰が動かすことになるのでしょうか。市役所の商工観光課が中心となって進めていくのでしょうか。今後の進行管理の役割が十分にイメージできなかったもので、再度説明していただけないでしょうか。

[事務局]

貴重なご意見ありがとうございます。まさに今回の計画で最重要となる部分だと思います。「(仮称)いなざわ観光まちづくりラボ」については、8ページの重点アクションプランの中で「稲沢市観光協会を中心としながら、市民や関係団体、行政等、多様な主体のネットワーク化を図り、事業の持続性や発展性を高めていきます」と記述しており、9ページでイメージ図も併せてお示ししています。多種多様な関係者が集まる組織体でありながら、観光という位置付けであるため、稲沢市観光協会が中心となって運営していくものです。また、34ページの第5章「計画推進のための役割と体制」の中でも、観光協会の役割として「稲沢市における観光まちづくりの中心的な実施主体として、積極的な事業を展開します」と明記し、「中心的な役割を担っていくのは稲沢市観光協会である」と位置付けています。

[委員]

「今後は稲沢市観光協会が中心となり、行政がサポートする形で(仮称)いなざわ観光まちづくりラボやそれぞれのアクションプランが動いていく」という理解で良いでしょうか。

[事務局]

お見込みのとおりです。

[委員長]

その辺りは私も気になっていました。12ページにアクションプラン3「観光協会の組織・機能強化」とありますが、ここには「機能強化をする」という記載があるだけで、「どのような機能を担うべきか」ということが具体的に書かれていません。「何をやるか」を書かずに、「強化する」とだけ書くのはおかしい話だと思います。その点については、34ページに「稲沢市観光協会の役割」として書かれていますが、ここはもう少し強い表現でも良いのではないかと私は思います。観光協会をDMO化することは全国的な大きな流れです。「デスティネーション・マネジメント&マーケティング・オーガニゼーション」、要するに「まちづくりのマネジメントができる」、そして「マーケティングによつて的確な誘客ができる」ことが今の観光協会の取り組むべき姿であるという認識が急速に進んでいます。「DMO」という言葉を皆が言い始めていますが、その中で「従来の観光協会がDMOになるのか」という議論も並行して進んでいます。例えば、伊豆とかの観光協会ですと、旧来の利権型の管理組織のため、「観光事業者の組織が観光協会である」という意見が強く、まちづくりの機能を持たせようとする、なかなか理解が得られにくい部分があります。そのため、「DMOを別に作った方が良いのではないか」という議論があります。稲沢市の場合にはそうではないため、私は「観光協会をDMO化する」ことをはっきりと書いた方が良いのではないかと思います。先ほど事務局から「(仮称)いなざわ観光まちづくりラボは観光協会が中心になって運営していく」との説明がありましたので、その点をもう少し強調して書いた方が良いと思います。

もう一つの機能として、26ページのアクションプラン1「観光資源の価値と理解を深める情報発信」に加え、34ページにも同じように「情報発信が観光協会の役割である」と書かれています

が、「情報発信をしていれば良い」という時代はそろそろ終わりを迎えつつあります。マーケティングをしっかり行ったり、ブランディングの機能を持つなど、外部の人たちに対して稲沢市のイメージを伝え、的確な誘客に繋げていくという機能を持たせるべきではないでしょうか。単に情報発信をしているだけではマーケティングにはなりません。「自分たちが来て欲しいと思う客や自分たちに関連する顧客に対してきちんと働きかけを行い、『誘客』という効果を出す」、これがDMOのマーケティング機能です。情報発信の機能だけでは、単にチラシを作ったり、SNSに情報を載せるだけに終始してしまう可能性があるため、そこは強調しておく必要があると思います。ある委員とも意見を交わしたのですが、広報やプロモーションが全体的に弱いイメージがあります。この計画書は10年間の計画のため、「SNSで情報発信します」と書いてしまってもいいのかも疑問が残ります。10年後、^{フェイスブック} Facebook、^{ツイッター} Twitter、^{インスタグラム} Instagramは存在しているのでしょうか。今後10年で目指す機能として、先ほども申し上げたとおり、「きちんとブランディングすること」と「誘客に結び付く適切なマーケティングをしていくこと」を入れておくべきではないかと私は考えます。

[委員]

委員長がおっしゃられたとおりだと思います。コミュニケーションの手法はどんどん変わっていくと思うので、「どのような目的で、どのようなターゲットに働きかけていくのか」をもう少し具体的に出しておくことが必要ではないでしょうか。例えば、14ページにアクションプラン5「外国人観光客の受け入れ体制の整備」とありますが、取り組みを進めていく中で「どのようなコンテンツで、どこの国の、どのような人たちに働きかけるのか」というイメージをしっかりと持てるのか、そうした部分が欠けているように感じます。パブリックコメントを実施しても、市民はコメントしづらいのではないのでしょうか。

先ほどDMOの話もありましたが、戦略性をどこで担保するかが大事なポイントになります。成果指標についても、7ページに10年後の年間観光入込客数として「350万人を目指す」という目標が掲げられていますが、その達成に向けて「個々のアクションプランにどれくらいの貢献を期待するのか」という部分までしっかりと見込んだ上で、計画を公表するべきではないかと思えます。

委員長も言われたように、コミュニケーションの手法に関する記述が少ないと思います。「外から人と呼んでこよう」という話を現在しているので、「外に対してどのようにコミュニケーションを広げていくか」について、細かい具体案でなくても良いので、せめて方向性だけでも記述しておいたほうが良いのではないかと思います。

[委員長]

「どこまで書くのか」が難しい部分ですが、「戦略的なマーケティング」や「ターゲットをきちんと定めて、効果的な誘客を行う」という縛りはかけておくべきではないかと思えます。漫然と情報発信を行うだけでは、的確な誘客ができなくなっているため、今申し上げたようなキーワードを入れた上で、「外から人と呼ぶことができる観光協会を目指します」だったり、「10年間で守るべきものは何か」といった記述を入れておくべきではないかと思えます。

[委員]

過去の委員会でホームページや広報、マーケティング、SNSやYoutube^{ユーチューブ}の話などを申し上げてきました。そして、第2回の委員会でご提言したのがアクセス解析の話です。稲沢市は広報力の面で後進だと感じています。これだけのアクションプランがあるため、ターゲットを設定することはあまり現実的ではないような気がします。まずはこちらから発信した情報に対する反応をベンチマークという形で取ってみてはどうでしょうか。

[委員長]

結果にコミットすることは明記しておくべきだと思います。先ほども申し上げたとおり、「観光を使って外から人を呼ぶ」という結果に対してしっかりとコミットすること、その中でターゲットを定めて戦略的な誘客を10年間図り続けていくこと、その辺りを上手い言葉でまとめていただけたらと思います。

[委員]

ターゲットを定める場合は、それに合わせた人材を発掘するという認識になりますか。

[委員長]

DMOの議論の中では、「きちんとマーケットにアクセスできる人材を置くべき」とされており、「マーケットを誰が務めるのか」を明らかにしておく必要があります。

[委員]

マーケットとはどのような人を指すのですか。

[委員長]

マーケットとは、地域資源の発掘やまちづくりに取り組みながら、それを誘客という結果にきちんと繋げることができる人のことです。

[委員]

稲沢市の観光関係者だったり、アクションプラン検討会議のメンバーで言うと、誰がマーケットになるのでしょうか。

[委員長]

観光協会の事務局長だと思います。稲沢市の場合、観光協会の機能強化はこれからの課題ですが、他の地域ではDMOを設立した場合、事務局長がマーケットとしての機能を担っています。マーケティングの機能と同時にまちづくりの機能も担っていかなければいけないので、どちらに重きを置くかで軸足が異なる場合があります。そのため、事務局長の下の事務員がマーケットを務める場合ももちろんあります。

[委員]

ターゲットの設定にはあまりこだわらないほうが良いのではないのでしょうか。

[委員長]

サリオパーク祖父江に来る人と、植木市に来る人が違うように、個々のネタでターゲットが全く異なると思います。ただし、今の計画案の書きぶりでは単にチラシを作って、配るだけに終始してしまいがちなので、そこはやはりネタに合わせてターゲットをきちんと選定していくことが必要だと思います。ですから、「ターゲットをどこかに定める」のではなく、「それぞれのネタに合わせて適切なターゲットを想定して、効果的な集客に向けた働きかけを行うこと」を記載しておくべきだと思います。

[委員]

今、ターゲットの話がありましたが、7ページの成果指標の表に「年間観光入込客数」の基準値として「253.6万人」、目標値として「350万人」という数値が掲げられています。この基礎資料として40ページに「各観光地・イベントの来訪者の推移」があり、「平成28年の実績数値にサリオパーク祖父江の利用者数を加えたものが基準値の253.6万人になる」との説明が先ほど事務局からありました。委員長もおっしゃれたように、40ページの各イベントを見てみると、県内からの来場者が多いイベントや観光施設がある一方で、県境を越えて人がやって来るものもあるので、個々のネタによってターゲットが全く違うと私も思いました。

もう1点、基本計画のレベルで言うと、10年という計画期間の中で、走りながら考えることもやむを得ないのではないかと思います。稲沢市には「そぶえイチョウ黄葉まつり」がありますが、愛知県全域で言えば、豊田市の小原町には春と秋に年2回咲く「四季桜」があります。紅葉と桜と一緒に見られる景色が話題となり、先日もNHKに取り上げられたところです。四季桜に関しては、実は思いのほか中国や台湾の人が見に来てくれています。これも「情報を発信しながらその効果がどこまで広がっていくか」を見ながら取り組んだ結果であり、今後はヨーロッパ方面にも広がっていくかを見ていくようです。また、中部運輸局が中心となって「昇龍道プロジェクト」の取り組みが進められていますが、あるヨーロッパに詳しい観光関係者の方から「ドラゴン是中国では縁起が良く非常に人気があるが、ヨーロッパでは悪役のイメージが強く、王子様がドラゴンを退治し、その上にまたがって帰って行くことが多い。昇龍道はそこまで意識されているのか」という皮肉めいた話を聞かされたことがあります。

ターゲットは非常に良いことですが、このようにやりながら考えていく場合もあると思います。稲沢市の計画は非常に分かりやすいと思います。アクションプランにも具体性の高いものと抽象度の高いものがあると思いますが、抽象度の高いものについては、取り組みを進める過程で「誰をターゲットにするのか」、「人を惹きつけるためには具体的にどのような戦略を取るべきか」を考えていく「進行計画」という捉え方でも良いのではないのでしょうか。

[委員長]

計画がスタートしてから5年後に中間見直しがあるため、まさに走りながら進めていく形にな

ると思います。この場合においても、個々に戦術を作って具体化していくことが必要になりますので、そのための体制づくりとして「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボの設置」と「観光協会の機能強化」を計画の中で分かりやすく記載しておくが良いと思います。

[委員]

「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボ」の組織の形は「いなざわウィルネット」に近いのでしょうか。観光協会を中心として多様な団体と連携を図りながらネットワークを構築していく形が「いなざわウィルネット」に似ている印象を持ちました。

[事務局]

「いなざわウィルネット」を意識して設計した訳ではありません。「(仮称) いなざわ観光まちづくりラボ」と「いなざわウィルネット」とでは、目指すべき方向性や組織としての考え方もそもそも違います。ただし、人を巻き込んだり、色々な団体と関わりを持ちながら活動を進めていくという部分では、一部似ているところもあると思います。

[委員]

観光まちづくりに関しては、市民の中でも結構話が出ています。「どのようなイメージか」、「どこが中心となって進めていくのか」という質問を受けることもあったため、お聞きしました。稲沢市には市民活動支援センターもありますが、どちらかと言えば「いなざわウィルネット」に近いのではないかと思います。

[委員]

3 ページに3つの基本方針が挙げられており、これらに紐づくアクションプランが11 ページ以降に掲げられていますが、ここに掲載されているアクションプランとアクションプラン検討会議で現在協議しているプロジェクトとは同じ位置付けになるのでしょうか、それとも違う位置付けになるのでしょうか。

[事務局]

アクションプラン検討会議で現在協議しているプロジェクトについても、この3つの基本方針を意識しながら検討を進めてきたものと認識しています。ただし、今後の展開次第で3つ全ての基本方針に紐づく可能性もありますし、基本方針2のみ、また、基本方針3のようにお金が落ちる仕組みに繋がっていく可能性もあり得ますので、事務局として11 ページ以降に掲載しているアクションプランのようにどれか一つの基本方針に絞り込む考えは現時点ではありません。

[委員長]

この辺りが観光基本計画づくりの難しい部分だと思います。福祉や道路建設などの計画では、行政が決めて行政が最後までプレイヤーとして進めることができますが、観光という分野は行政がプレイヤーになれない分野です。それだけに、行政が決めて「これでやります」と計画を作っ

ても、市民が「嫌だ」と言えばそこまでです。もちろん、市民がやりたいことを汲み上げて、それをボトムアップで積み上げていくことが理想ですが、根本は行政の計画であるため、トップダウンもある程度やらなければいけません。実際のアクションはトップダウンではできませんが、大きな方針などは行政として決めていかなければいけないため、ボトムアップとトップダウンの両方攻めを行っていく必要があります。そうした中で、「無理に行政のフレームに合わせることはせず、市民からの発意を大事にして、実際に市民が協働していく場を重視しながら進めていく」というのが今の稲沢市が進むべき姿です。私の個人的な感想としては、アクションプラン検討会議で協議中のプロジェクトが今後アクションプランのメインになっていくのではないかと思います。トイレの整備などはある程度行政だけでできるのですが、外国人の誘客については、市民が「嫌だ」と言えばそこまでで、行政としては「目指しています」という書き方しかできないのが観光基本計画の特性です。市民の皆さんから出た意見が何よりも実現性が高く、何よりも優先的に取り組むべき課題だと思いますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

[委員]

30 ページのアクションプラン5「トイレ、休憩所、駐車場の整備及び案内」の主な取り組みの中に「トイレ、休憩所、駐車場の適切な整備」とありますが、この記載も28 ページのアクションプラン3「観光施設の安全確保と利便性の向上」と同じように「バリアフリー化」や「ユニバーサルデザイン化」といった具体的で分かりやすい表現にしておいたほうが良いと思います。

また、アクションプラン3「観光施設の安全確保と利便性の向上」の主な取り組みである「市内関連施設におけるバリアフリー化等の推進」についても、市だけで取り組むのではなく、「施設を持つ者が皆で協力して取り組んでいく」という方向性を示しておいたほうが良いと思います。

[事務局]

いただいたご意見について、記載していく方向で検討させていただきます。

[委員]

トイレについてですが、アクションプラン検討会議から「プロジェクトの実施に際しトイレが必要だから造ってほしい」という依頼があつて初めて整備されるのか、そうした要望が無くても、行政としての将来計画があるので、それに沿って進めていくという形になるのか、どちらでしょうか。

[事務局]

ケースバイケースになると思います。プロジェクトの検討を進める中で「ここにトイレが必要である」というご意見をいただき、行政が審議するケースもあると思いますし、逆に行政側が必要を感じて先に整備を行うケースもあると思います。例えば、将来的に尾張国分寺跡の整備・活用方針が具体化し、実際に施設整備を行うことになった際には、行政が主導する形になります。

[委員長]

7 ページの成果指標について、「年間観光入込客数」の平成 39 年の目標値が「350 万人」のため、10 年間で 100 万人の増、つまり 1 年で 10 万人ずつ増やしていく形になりますが、もう少し華々しい目標が無いものかと思えます。何だか中途半端な感じがします。もちろん観光入込客数のみを目標値として捉えるべきではなく、また数が増えれば良いのかと言えば、そういうものではありませんが、ある程度の基準としてはすごく大事であり、先ほど申し上げた「きちんと誘客に結び付ける」ことをイメージさせる点でも非常に重要です。ビジット・ジャパン・キャンペーンの時も「訪日外国人 1,000 万人」という目標を当時の小泉総理が掲げたところ、全くリアリティが無くて皆どうすれば達成できるのかと思っていましたが、実際に 1,000 万人の目標を超えた時の達成感はずごく大きく、国内の観光にとても自信を与え、日本は本当に魅力的な国だということを数値目標で確認することができました。今はそこからさらに 2,000 万人、3,000 万人という数字へと伸びています。このように皆の達成感があり、なおかつ、その後どんどん推進していけるような目標のほうが良いのではないかと思いました。

1 年間に 10 万人ずつ増やす目標では、いまいち発想が飛ばないと思います。「これをしなければいけない」、「あれをすべきである」というイメージを広げていき、「誘客に向けてどうしていくべきか」を考えていくためには、もう少し高めの数字を設定したほうが良いと思います。そうした意味で、「10 年後に 500 万人」という目標は少し行き過ぎでしょうか。5 年後の目標を「350 万人」としたほうがリアリティがあると思いますが、いかがでしょうか。そこから、さらに 5 年間で 100 万人増やすと 450 万人になるので、間を取って 400 万人でも良いと思います。

[委員]

40 ページの「各観光地・イベントの来訪者の推移」を見ると、平成 24 年から平成 27 年まで少しずつ増え、平成 28 年で減少しています。数字だけを見ると現在の「350 万人」という目標値は妥当な気もします。

[委員長]

現在、この統計で定点観測をしているのは尾張大國霊神社と祖父江善光寺東海別院で、それ以外はほぼ祭りの数値です。ということは、おそらく定点を増やせば数字は増えるのではないのでしょうか。直売所や祭り期間外のイチョウを見に来る人など、細かい定点を増やしていくとさらに数字が伸びて、目標値にも近付いていくのではないかと思いました。

私が関わっている他のまちでは、直売所が定点に入っています。直売所はかなりの数字が見込める施設で、大府市にある「JA アグリタウン げんきの郷」の来訪者は年間およそ 200 万人だそうです。この数値からすると、愛知県の観光施設や集客施設は 100 万人規模の人が入るといふすごい特徴を持っています。そうしたものを作れば、稲沢市でも 500 万人くらいは達成できるのではないかと思いました。今申し上げた直売施設や新たな施設を定点に加える前提で、目標値を「500 万人」にしてはどうでしょうか。ちなみに、目標値はこの会議の場で決めていいのでしょうか。

[事務局]

貴重なご意見をありがとうございます。「350万人」という目標値については、先ほど説明させていただいたとおり、基準値である「253.6万人」に「(仮称)いなざわ観光まちづくりラボ」の活動を通して「10年間で100万人増やす」という意味合いで設定したものです。この100万人という数値ですが、実は稲沢市で一番の集客を誇る尾張大國霊神社の年間の来訪者数であり、「この規模の人数をラボの力で増やしていきたい」と考えたものです。目標値については事務局でもかなり議論をしており、数値の華やかさについてはかなり危惧した部分です。委員の皆様からご意見をいただき、数値設定を確認したいというのが事務局からの提案ですので、この場で目標値を決定したいと思っております。

[委員長]

委員の皆様のご意見はいかがでしょうか。リアリティを求めれば、「500万人」は理想の高い数値かもしれません。

[委員]

先ほど委員長から産直施設の話がありましたが、市内には規模の大小はあるものの、JA愛知西の施設が5か所あります。さらに、来年の4月には新たに大規模施設ができる予定です。また、民間のスーパーマーケットにも産直コーナーがあります。これらの施設の来訪者数については、現時点で把握できていませんが、観光的な側面で捉えて今後数値に加えていくことも考えられます。

[委員長]

あまり高すぎる数字もリアリティが無いので、「400万人」くらいでいかがでしょうか。

[委員]

「500万人」でも良いと思います。

[委員]

大府市の「げんきの郷」は足湯もあって、利用者の評価も高い施設です。こうした施設を観光施設の概念に加えていくことは非常に良いことだと思いました。ただ、現状値と10年後の目標値を比べた場合に、定点の数が違うのは統計上どうかと思いますので、達成目標を「350万人」とし、理想目標を「500万人」としてはどうでしょうか。

[委員長]

もちろん、40ページに掲載されている定点だけで現状値から倍増させることには無理があります。稲沢市で観光施設や交流の場が増えたことが、結果的に来訪者数の増加に繋がったという証明にもなりますので、観測のポイントを増やしていくことを含めて考えれば、もっと大きな数字を出しても良いのではないかと思います。ポイントを増やして、今ある施設への来訪者も増やし

ていくということです。10年間の計画のため、「今の祭りが10年間続くのか」という話が出てくる可能性もありますので、定点の変更は当然あり得る話だと考えます。

[委員]

「350万人」という目標値は、県の立場として「あいち観光戦略」の数値目標を基準に考えた場合、5年後の達成目標になると感じます。その後の5年間でどれだけ上乗せできるかを考えて、10年後の目標値を設定してみてもどうでしょうか。

[委員]

目標値を「500万人」に設定する場合は、その根拠も再構築する必要がありますか。

[委員長]

数値目標は「市民が共鳴できるかどうか」がポイントです。市民がまちづくりに取り組む中で、「観光に取り組もう」という人たちが増えて、「この数値を目標にして皆で頑張ろう」となれるかどうかです。そういう意味では、先ほど説明があった「尾張大國霊神社の年間来訪者並みの人数をラボの力で増やしていく」という数字の根拠はすごくよく分かりました。

先ほど県から「5年後に350万人を達成してほしい」という意見がありましたので、これを平成35年の目標値にし、その後の5年間で100万人増を目指すこととして、平成39年の目標値を「450万人」としてはどうでしょうか。「市民活動を通じて5年間でそれぞれ100万人ずつ増やしていく」という文言があると、皆で目指しやすいのではないかと思います。

[委員]

フラワーパーク江南は今年の10月5日で10周年を迎えました。1年目の入園者数は30万人でしたが、現在では100万人を数えます。10年で3倍以上になっています。そのような事例があるので、目標の人数を増やすことについては良いと思います。

現在この会議に委員として参加していますが、計画が完成してから取り組みをスタートさせては遅いと私は思っていますので、国として現在もそれなりに動き出しています。15ページにアクションプラン1「地域資源の活用と新たな観光資源の発掘」とありますが、サリオパーク祖父江では、「今のままの自然を守っているだけでは観光資源の開発にはならない」と考えています。日本で3つしかない河畔砂丘を今よりももっと良い砂丘にすることを市民と共に取り組んでいく中で、観光客を増やしていきたいと思っています。

自然の中で一番壊れる可能性が高いのは、砂丘ではなくて森です。森があることで野鳥がたくさん飛来することもあり、観察だけの目的でサリオパーク祖父江に来られる市民団体も多いです。実際にその方たちを交えて、「この森に手を付けなかったら、すぐにでも枯れてしまうかもしれない」という話をこの半年間してきました。そして、「どのような形で手を付けるのか」を現場で話し合った結果、市民団体の方々から「森に手を付けることは構わないが、もっとカワセミが撮影できる状況を作りたい」という提案が出されました。この提案が実現すれば、「野鳥を守りたい」と思う人たちがサリオパーク祖父江に集まり、その結果、今より2、3割お客さんが増えるので

はないかと予想しています。目標値の議論がされている中で、既に形となって実践しつつある事例があることもぜひ知っておいていただきたいと思います。

森の次は砂丘に手を付けたいと思っています。現在は砂場に草が生えている状況ですが、「日本で一番砂像が作りやすい砂」という評価を尾張砂像連盟の方からはいただいています。その砂丘をもっと増やすため、国として公園区域を増やす計画を3月31日付けの官報で告示する予定です。これによって、ビロードテンツキという絶滅危惧種の植物を守る活動ができるようになります。そして、名古屋を中心に環境保全活動を行っているグループが野鳥の会とは別にありますので、その人たちにも来てもらうことができます。ビロードテンツキを守る活動が砂丘を増やすことにも繋がっていきます。

砂丘が保全されて、今後のさらなる活用の話になれば、次はプールと海水浴場の中間となる「川の水浴場」を作って、「名古屋の近くにこんな所があるのか」と多くの人に感じてもらえるような場所にしていきたいと考えています。それができれば、水浴客が増えます。そうなれば、祖父江町商工会の方々に店を出していただいたり、砂の上でビーチバレーもできるようになったり、また別のスポーツも誘致することができます。さらにサップヨガなどの新しいスポーツもどんどん取り入れて、活性化に繋げていきたいと考えています。

国としては、観光客を増やすため、既に考えて動いている部分がありますので、フラワーパーク江南が30万人から100万人になったように、サリオパーク祖父江でも40万人から100万人に増えるような状況を作りたいと思っています。

[委員長]

力強いお言葉をいただきましたので、目標値はやはり「500万人」に設定してはどうでしょうか。一言断っておきたいのは、目標値を設定しますが、必ずしもそれに縛られる必要は無いということです。「稲沢市の良い部分をもっと掘り起こし、多様な人たちに来ていただくことによって、この目標値を目指していく」という文言を入れた上で、数値に関しては、平成35年は「350万人」、平成39年は「500万人」で行きたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。そのために「市民の力を結集して行きましょう」というストーリーでいかがでしょうか。

<「異議無し」の声>

[委員長]

「異議無し」の声をいただきましたので、事務局にあつては目標値の変更のほか、委員の皆様からの意見を踏まえて計画案の修正作業を進めていただくようお願いします。

他に委員の皆様からご意見等はございますか。

[委員]

一つお願いしておきたいことがあります。日曜日に観光協会が主催している「いなっピーバスに乗って観光地を巡ろう！」というイベントがあった際に、「美濃路を歩きたい」という男性の方がみえたので、禅源寺までご案内しました。写真を撮りながら熱心に行ったり来たりして、何か

を探している様子だったので、「何かお探しですか」とお聞きしたら、「本陣跡を撮りたかったが、場所が分からなかった」と言われました。本陣跡の場所には以前立派な石碑が建っていましたが、その石碑は現在工事中のため別の場所に保管されており、現地には何の看板もありません。せめて現地に「ここが本陣跡の場所ですが、石碑は工事中のため現在移設されています」といった具合に、何らかの案内表示があっても良かったのではないかと思います。また、先日開催された「そぶえイチョウ黄葉まつり」の際にも、「案内看板が少なくて分かりにくい」というご意見を多くいただきました。案内看板が無いにもかかわらず来てくださっている方もいるので、ぜひ整備を早急に進めていただきたいと思います。観光客へのご案内は真心であり、親切心だと思います。案内看板などが整っていなければ、例え立派な施設があったとしても人は来てくれないと思います。新たな観光資源を掘り起こす前に、今あるものをしっかりと充実させていただきたいと観光ボランティアの立場から思いました。

[委員長]

事務局はよろしくお願ひします

時間も押してきましたので、以上で協議事項（１）は終了とし、次に移りたいと思います。

（２）その他

[委員長]

次に協議事項（２）その他について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料２「稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議の開催状況について」及び資料３「稲沢市観光まちづくりビジョンの策定に向けた今後の流れ」に基づき説明】

[委員長]

ありがとうございました。今後のスケジュールについては、今説明があったとおりです。本日委員の皆様からいただいた意見を反映させた形でパブリックコメントにかける案を事務局で調製するということです。よろしくお願ひします。

ただ今の説明に対し、ご意見、ご質問はありますでしょうか。無ければ、本日の議事を終了したいと思います。慎重審議いただき、誠にありがとうございました。

３ その他

[事務局]

ありがとうございました。本日のご意見を踏まえまして、「稲沢市観光まちづくりビジョン(案)」を取りまとめ、12月19日(火)から1月10日(水)までの間、市民の皆様から幅広く意見を募るためのパブリックコメントを実施させていただきます。

それでは、最後に事務局から事務連絡をさせていただきます。始めに次回の会議についてですが、年明け1月30日(火)の午後2時から、会場は市役所本庁舎3階の議員総会室で開催させて

いただきます。また、第8回の会議につきましては、2月14日（水）の午後2時から、会場は同じく議員総会室で開催させていただきますので、よろしく申し上げます。詳細につきましては、文書で改めてご案内いたしますが、それぞれ事前にご予定いただけますと幸いです。

また、会議の冒頭でもご案内しましたとおり、この後「祖父江のイチョウ黄葉」の見学へと向かいます。会議の閉会后、速やかに出発したいと思いますので、ご参加いただける委員の皆様におかれましては、市役所南玄関前にお集まりいただきますようお願いいたします。

以上をもちまして、会議を閉会させていただきます。本日は長時間にわたり、誠にありがとうございました。

以上